小学校国際交流支援プロジェクト
～小学校の国際交流支援「テディベアプロジェクト」（TBP）を通して～

団体名●清水ゼミナール（清水フィールド３年）
代表者名●清水和久（人間科学部こども学科・教授）

はじめに（背景・目的・目標）

清水ゼミでは日本の小学校と台湾の小学校との国際交流の支援を毎年行っている。将来教員を目指す清水フィールドの学生にとって、台湾と日本の先生の間に入って調整役を担うことは、将来、学校現場で国際交流に取り組む時の支援方法を体験でき、大変有意義な経験となる。小学校の先生が直接海外の小学校とつながる機会は少ないため、大学が間に入ることで多くの小学生に国際交流の体験をしてもらいたいと考えている。

この交流プロジェクト自体の目的は、同世代の小学生が国境を越えて交流することで、早いうちから異文化理解の原体験を持つことである。

目標①：英語の自己紹介のカードの交換を通して、相手への興味を育て内容を理解できること

目標②：交流校と WEB 会議を体験し視聴覚をフル可動させて相手を理解し、自身を発信できること

目標③：自分たちの代表であるベアを通して日本人のアイデンティティを考え、台湾からのベアと共に生活する中で日本の文化や生活様式を発信できる。

2024年度の日本と台湾の参加校

表1　2024年度TBP参加校　（同番号が交流相手校）

○日本側　（330人）
1）金沢市立小立野小学校5年3クラス
2）金沢市立四十万小学校6年3クラス
3）金沢市立鞍月小学校6年4クラス
4）能美市立宮竹小学校5年1クラス
○台湾側（350人）
1）台北市立五常国民小学校5年3クラス
2）嘉儀市立宣信国民小学校6年3クラス
3）嘉儀市立精忠国民小学校5, 6年4クラス
4）能美市立宮竹小学校5年1クラス

（金沢市3校、能美市1校：児童数約335人、
台湾は4校11クラス　児童数　約　340人）

活動内容

1. 実施内容

①6月　国際教育導入ワークショップ（各小学校）
②7月　台湾の小学校とのマッチング
③9月　台湾との交流開始（ベアの送付と授受）
④10月　交流日記の制作（各小学校）
⑤11月　TV 会議の実施（各小学校）
⑥12月末　台湾の小学校への訪問
⑦1月　台湾報告会（各小学校）
⑧2月　ベアの帰国

2. ゼミ生の関わり

役割としては、台湾と日本の小学校の交流の支援である。以下ゼミ生が関わった内容

①　国際教育導入ワークショップ

「世界がもし100人の村だったら」というワークショップを小学校で実施。世界の住人の1人となって世界の貧困問題や教育問題について考えてもらうためのワークショップを企画して実施。世界について関心を持ってもらうことを目的とした。

②　台湾の小学校とのマッチング

日本で募集した小学校と台湾の小学校との交流ペアを決定し、ゼミ生1人当たり2ペアの交流担当校を決定。学生がグループ LINE を作成し、日本の先生と台湾の先生を招待し、交流の足場を作る。なお、交流開始は、台湾の新学期が始まる9月からとする。

③　台湾との交流開始（ベアの送付と授受）

TBP は自分たちの代表者であるクマのぬいグルミを留学生として交流校に送るものである。日本の小学校から性格づけられたぬいぐるみを受け取り、EMS 郵便で発送する仕事を受け持った。送るものは1つ1つ重さをはかって記入する必要があり、思ったより、大変であった。

④　交流日記の制作（各小学校）

小学校では台湾からやって来たベアの日本での滞在記を作成することになる。使用するのは Padlet という Web で作成できる掲示板。交流担当の学生が、つくり、そこに小学生に書き込んでもらうの環境設定を行う。学生も使うのが初めてであり、まずは使い

こんでから紹介することとなった。

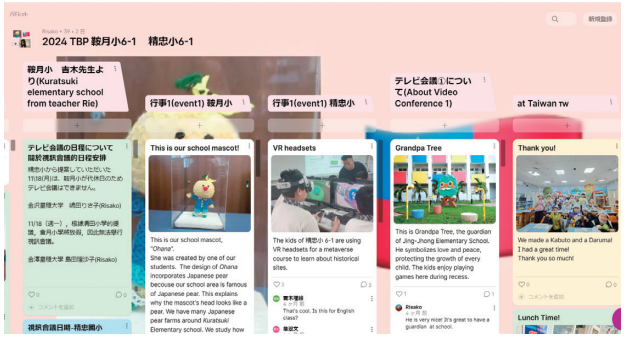

図1　小学校の交流（Padlet）

⑤　TV 会議の実施（各小学校）

ペアの小学校同士で WEB 会議を行う。学生は遠隔で zoom に入り、話し合いが止まった時や、あきらかに意味を取り違えている場合にはアドバイスを行うこととして、司会などの役割は行わず、見守り役に徹した。1回目は小グループの zoom 交流で、5, 6人で実施、子どもたちは何とか自分の思いを伝えようとクロームブックの翻訳アプリなどを駆使して発信していた。3月に行われた2回目の zoom では総合の発表を踏まえ、日本の5年生は加賀野菜、台湾の5年生は環境教育でソータパネルやホタルの生態についてのプレゼンをクイズ形式で行っていた。

図2　台湾五常小学校　2回目プレゼン画面

⑥　台湾の小学校への訪問

日本の小学生は直接台湾には行けないので、大学生が代わりに行ってくるというスタンスをとった。

日本の小学生から託されたクリスマスカーを無効に届けたり、日本小学生のからもらったミッション（例：台湾でおいしいものを食べてくる、有名観光地に訪れるなどを）をこなしてきたりした。また台湾で経験したことを動画で撮影して帰国報告に備えた。

図3　星稜大学生台湾訪問紹介スライド

⑦　台湾報告会（各小学校）

現地で見てきた様子をスライドにまとめて小学校で報告した。特に360度カメラで撮影した動画は VR ゴーグルで見てもらうことで、臨場感のある体験ができた。

⑧　2月　ベアの帰国

たくさんの思い出をもって日本の小学校で滞在したベアを大学生がお世話して台湾に返す作業を行った。

図4　台湾への帰国を待つベアたち

成果、結果の考察

学生は、約9月間スタートからゴールまでの国際交流の支援をすることができた。交流を裏から支えること、自身が台湾へ行ったことから、国際交流のすばらしさと企画する大変さを知ることができた。

今後の課題、展望

毎年清水ゼミの3年生がこの TBP に関わるが、4年生になっても、この経験を生かして次の3年生にアドバイスをしてほしい。小学校の教員になった暁にはぜひ国際交流に挑戦してほしい。